

報告 I

現代スリランカの仏教教団

——宗派・組織・法規

相山女学園大学名誉教授
橘堂正弘

岡本： それでは、これより報告へ移らせていただきます。最初の報告者、相山女学園大学名誉教授、橘堂正弘先生のご略歴を少しだけご紹介いたします。橘堂先生は龍谷大学の大学院を修了されました。その後、セイロンのヴィディオーダヤ大学に留学された他、50数回に及ぶスリランカ現地調査を実施され、スリランカ仏教教団全三派より名誉称号も受領しておられます。文献学、歴史学、言語学の視点からの研究に、現地調査をも加え、仏教の実態を理解する上で貴重なご研究をなさっておられます。

それでは、橘堂正弘先生に「スリランカ仏教の宗派・サンガ組織・サンガ法」についてのご報告をお願いいたします。先生、よろしくお願いいたします。

橘堂： 橘堂と申します。スリランカの仏教教団、特に宗派、その組織と法規について報告いたします。

スリランカには、仏教のほかにヒンドゥー教、イスラム教、キリスト教がありますが、仏教徒が全体の 76% を占めております¹⁾。

仏教信仰の深さにおいて、日本より格段の差があつて優れているように思います。

スリランカの僧侶には、出家の戒律 227 がありますが、現在でも守っているのでしょうか。スリランカではこのようなことを問わないのが普通です²⁾。在家は僧侶が必ずしも厳格に戒律を守ってはいないことも知っていますが、別にとりあげて申しません。破戒は僧侶側のことで、在家には関係ありません。黄衣を身に着けているだけで僧侶は礼拝され、供養されます。僧侶がおらなければ仏教がなくなります。スリランカで「仏教」といえばその中に仏法僧が含まれています。仏教学者でも、私たちは西洋人の学者と違

¹⁾ 図表に古い年代のものが入っている。Sri Lanka Survey Department が 10 年に 1 度 *National Atlas* を出版する。2012 年版は出ていない。

²⁾ 例外として、コロンボ近くの Mount Lavinia に戒律復興（振興）協会 Vinayawardhana Society（現在名 Sri Lanka Buddhist Vinayawardhana All Island Central Society Ltd.）がある。1932 年に熱心なウパーサカ G.V.S. Jayasundara が創立し 1938 年に正式に設立された。サンガは過去に何度もサンガ破壊の罪を犯してきたし、比丘は戒律を守っていない。このような比丘、サンガは必要なく、在家のみで修行し涅槃に到ると説く。月刊紙 *Budumina* を発行、部数 3,000 は当初と変わらない（2012 年 11 月）。協会が存続しているのに関心がある。

って、仏教を将来に伝えていく義務をもっている。仏教国の仏教学者は仏教の護持発展に寄与しなくてはならないとよく聞かされます。憲法でも宗教の中で仏教を第1の地位におき、国家はその護持発展の責務をもつと述べています。

このような熱心な在家信者を育成している、また布施をうけて生活している僧団、教団の存在形態を垣間見ようとします。

最初に宗派でございますが、伝統的に上座仏教でどの派も同じ教義で、これは東南アジアの上座仏教も変わりありません。歴史的に一時期に大乘仏教も信じられましたが、存続しませんでした。

以下少し説明を加えてプリントを読ませていただきます。

〔宗派〕

1) マハーヴィハーラ (Mahāvihāra, 大寺) 派

スリランカ仏教の正統派。世界最長の仏教史の中で、幾度も消滅の危機にあいながら固く戒律の伝統を守って上座仏教を伝えた。現代のスリランカ仏教はこの派の系統。紀元前3世紀、アショーシカ王の王子のマヒンダ長老が伝道し、デーヴァーナンプiya・ティッサ王が深く帰依し、かれらのために都のアヌラダプラの南側に最大の寺院を建立したのが起源。三蔵と註釈書が保存され、学問の中心地で、国の内外の学僧が多く集まった。比丘教団と同時代に、サンガミッターニはボダイ樹を携えて来島し比丘尼教団も確立した。5世紀にブッダゴーサが来島し、この寺院で註釈書と上座仏教の根本教典『清浄道論』^{ヴィスディマग्ガ}を著わしてこの派の教学を確立した。南インドのタミル人による破壊や遷都によって荒廃し、現在は遺跡があるのみである。その遺跡の寺院群は最も重要な聖地となっている。

2) アバヤギリヴィハーラ (Abhayagirivihāra, 無畏山寺) 派

紀元前1世紀、ヴァッタガーマニー・アバヤ王がマハーティッサ長老に寄進した諸王の保護により栄えた寺院の一派。マハーヴィハーラ派から独立し、対抗して、ときには優位をなした。上座仏教の中で、自由・解放的でインド仏教の各派、大乘仏教・密教の僧侶を止住させた。5世紀頃には国内で最も栄え、中国僧の法顕もこの寺院に住していた。仏齒は4世紀にカリンガよりもたらされた。

3) ジェーターヴァナヴィハーラ (Jetavanavihāra, 祇多林寺) 派

4世紀はじめ、マハーヴィハーラ派に反感をもったマハーセーナ王はマハーヴィハーラの境内にこの寺院を建立し、後に一派をなした。別名サーガリヤ派。この寺院も上座仏教であるが大乘仏教の僧侶を止住させていた。以上の三派が長くスリランカ仏教を代表した。

4) 三派をマハーヴィハーラ派に統一

12世紀、パラクラマバーフ I 王は教団の肅清、復興を願って各派の長老を集めて宗規（カティカーヴァタ）を制定した。その結果、戒律を重視するマハーヴィハーラ派に3派を統一した。13世紀、パラクラマバーフ II 王はダンマデニ宗規を制定し、教団を復興させた。

5) マルワッタ、アスギリヤ寺院の建立

15世紀後半、セーナサンマッタ・ウィクラマバーフ王はキャンディを都とし、教団の復興を願って両寺を建立。マルワッタは村住僧の代表寺院、アスギリヤは林住僧の代表寺院。しかし、以後約450年の植民地時代で教団は滅亡状態となった。

6) シャム派の樹立

沙弥のヴァリヴィタ・サラナンカラ、国王キールティ・スリー・ラージャシンハ王の教団復活への熱意の結果、タイのアユタヤからウパーリ長老一行を招き、1753年にキャンディのマルワッタ支派の結界で受具式を行ないシヤモーパーリ・マハーニカーヤ(Syamopāli Mahānikāya, 略称シャム派)を樹立した。しかし、国王は受具式をゴイガマ・カーストにししか認めなかった。³⁾ シャム派は、現在8支派に分派。⁴⁾〔表参照〕

7) アマラプラ派

非ゴイガマの沙弥は独自にビルマ（結界は首都アマラプラが主）に行き、受式。比丘になって帰国し、アマラプラ派を開派した。5つのグループが別々に渡航したが、最初はアンバガハピティエー・ニャーナヴィマラ・ティッサであった。かれらは、1803年に南部バラピティヤで受具式を行なった。現在、22支派に分派⁵⁾しているが、アマラプラ・マハーサンガ会を組織し統一している。

³⁾ 最初期のシャム派では、低カーストの沙弥で比丘になった者もいた。しかし、かれらは役人の高官の挨拶に返礼したり、俗人時代の仕事を続けたり、民俗信仰を行って比丘としての資格や品位を欠いたからと伝えられている。

⁴⁾ マルワッタ支派から 1982 年、Ven. Prof. Kaṃburupīṭiyē Vanaratana が南部ローハナで分派。Śrī Rōhaṇa Saṅgha Sabhāva と称す。最初の受具式は 1986 年、Tihagoḍa で行う。その後マータラの Pegient Island に新結界を設立、毎年、受具式を行う。分派の理由は、マルワッタでの受具式は地理的に不便である（南部・低地での分派の真の理由は、マルワッタの理事会は高地出身者が独占するのに反対）。近年、アスギリ支派から著名な石窟寺院ダンプラの Ināmaluvē Sumaṅgala 住職が分派。Raṅgiri Duṃulu Vihāra Saṅgha Sabhāva と称す。管長との意見の相違という（例えば、スリランカの管長たちは比丘尼を公式には認めない）。

⁵⁾ 分派の理由に 1. 5 人の開祖がいた 2. ビルマでの受具式場の違い 3. カーストの違い 4. 戒律論争 5. 受具式場へ行く地理的理由 6. 管長選出の問題 7. ビルマ高僧の来島

8) ラーマンニャ派

アンバガハウァテー・サラナンカラはゴイガマ出身で、シャム派の比丘であったが、教団に満足できず、アマラプラ派に転じ沙弥となった。しかし、この派からも去ってビルマに渡航し受具式をうけた。比丘名をアンバガハヴァテー・ヴァラニャーナサーミと称す。帰国後、1864年、独自に理想⁶⁾の教団をめざし一派をもった。カーストに関係せず、戒律を重視した。派内に林住僧の一派を含めている。

〔サンガ組織〕

I. 中世のサンガ組織を伝えているダンマデニ宗規によれば、

1) 比丘には村に住し、学問を中心にする村住僧と森林で瞑想中心の修行をする林住僧の2派があった。

2) サンガの最小単位は寺院で比丘が運営する。寺院に住職 (vihārādhīpati) がいた。住職は年長と学徳によりサンガが任命。寺院が集って組 (gaṇa) をつくる。組長 (gaṇa thera) がいた。組は同一の境界内か布薩を共にする寺院であるか定かでない。組の全体を統括するのがサンガの大長老 (mahāsthavira, 管長) である。林住僧にもサンガの大長老がいた。その1人が全サンガを統括する最高大長老 (mahāsāmi, 門主) である。サンガによって選ばれ、国王が任命した。マハーサーミはダンマデニ時代はサンガラージャ (saṅgharāja, 僧王) と呼ばれた。

3) 寺院学校 小学校 (piriveṇa) にも大・小があったが、パーリ、サンスクリット、シンハラ語の学習が主であった。大学校 (āyatana) の校長は大長老で、国王から豊かな土地や定期的に入用物が支給された。比丘には学階があって、試験の結果称号が与えられる。大長老には称号が必要であった。

II. 現代のサンガ組織

1) シャム派 最大支派はマルワッタとアスギリヤ支派であるが、キャンディ王朝時代の伝統を殆んど受けついでいる。マルワッタ支派では、20人の理事会で運営される。彼らはサラナンカラ・サンガラージャの法累の高地の高カーストで占められている。⁷⁾ 管長 (mahānāyaka therā. 終身職)、副管長は理事会で決める。全国を7教区 (palāta) に分け、その下に組 (pattu) があり、その長 (saṅghanāyaka) は理事会が決める。アスギリヤ支派の組織もマルワッタに似ている。林住僧の派のため、村住僧の寺院の形態をもっているのは2割程度という。著名な石窟寺院がこの派に属するが近年ダンブッラ寺院が離脱した。

⁶⁾ 1. 森林行者を重視 2. 神々の礼拝を非難 3. 破戒論争、戒律厳守を主張

⁷⁾ マルワッタには35のパンサラ (塔頭、僧庵) が隣接して建っているが、すべてその法累に属する寺院が所有している。理事会で定める役職によって収入が異なる。低地のゴイガマの批判が現在もある。

2) アマラプラ派は全22支派の管長の中から選んだ最高管長（終身）⁸⁾と事務総長がアマラプラ・マハーサンガ会の名のもとに全派を運営している〔表参照〕。1974年、アマラプラ・マハーサンガ会の宗規を制定した。今後の分派を認めないこと、支派の名前の前にAmarapuraを付けることを決めている。各支派も宗規をもって、管長、副管長、審判長（終身職）などの役職をもって運営している。

3) ラーマンニャ派の運営は地方組織と中央組織に分け、地方組織から中央組織へ代表者の役員が選ばれてくる。比丘の直接選挙で民主的に運営されている。伝統的に理想主義的、戒律重視的態度、カースト差別をしないで入団させる。比丘の生活をオープンにする（自室に信者が入れる）などで、この派は分派していない。

4) 現在のピリウェナ 小学校（6年）、大学校（3～4年）、高等大学校（3年）がある。小学校は在家（男子）も入学できる。各校でパーリ、サンスクリット、シンハラ語を中心に教えられる。大学校卒業で比丘大学（B.A.）入学受験資格がえられ、高等大学校卒業で政府のOriental Studies Society, ColomboからPaṇḍitと称する学位称号の受験資格がえられる。仏教日曜学校では仏教、パーリ語は必修で、普通の大学（国立）でも仏教・パーリ語の科目を設けている。

〔サンガ法〕

1) ダンマカンマ

サンガの法律は律蔵に規定されている。サンガ内部の問題は、捷度部に述べる如く、比丘の会議の手続き（カンマ）に従い、議決した。しかし最大の問題は破戒の比丘が多くいても罰せず、放置されているときである。12世紀まで、それを解決できる最高の権威者の比丘がいなかった。サンガは信者（国民）の礼拝の対象であり、サンガなくして現世、来世の安楽な生活はない。そのため、国王はサンガ護持の責任をもっていた。サンガの粛清（sāsana-visodhana）を比丘が議決（dhammakamma）することを要請し、それを発布し、王権で実施させた。史書『マハーウァンサ』によれば、5世紀のモッガラーナ I 世、特に7世紀のシラーメーガウァンナ王は厳しく破戒者を罰した。

2) カティカーウァタ

サンガの復興、浄化に対する国家的、社会的要望に応えたカンマの内容（サンガの儀礼から比丘の生活規範までを含めて）をひろくまとめた規約がカティカウァタ（katikāvata, 宗規）である。国王が発布したので、王の名前で呼ばれ13種ほど存す。12世紀のパラークラマバーフ I 世の宗規、13世紀のパラークラマバーフ II 世の詳細な宗規が有名である。

⁸⁾ アマラプラ派の全支派をまとめる役割をはたしたバランゴダ・アーナンダマイトレヤ（Baṅgoḍa Ānanda Maitreya 1896–1998）についての報告を少し加筆して末尾に記した。

前者ではサンガの和合、聖典の学習、外出の規制、日課、入団者の選抜を規定し、後者ではサンガの組織、統制をつよめるため、出家（カーストを限定）、受具式（サンガの主が主宰、国王の認可、式場の一定が必要）、依止の重視、日常生活の規則を詳細に述べている。この宗規は後世に受け継がれた。国王による宗規はイギリス植民地時代直前のシュリー・ラージャディラージャシンハのものが最後である。

3) 新しいカティカーウァタ

1815年、全島が植民地となり王統が絶え、仏教は滅亡状態となったが、復興をとげ、シャム派（8支派）、アマラプラ派（21支派）、ラーマンシャ派（1派）が成立し、各派が独自の宗規を理事会で議決し管長名で発布してきた。シャム派では1795、1828、1853、1858年などがあるが、マルワッタ支派では1920年、沙弥の教本とともに印刷したものは現在においても用いられている。アマラプラ派全支派を統一するアマラプラ・マハーサンガ会の宗規は1973年に発布された。⁹⁾ ラーマンニャ派は1872年に宗規が定めたものがあり、1989年には21頁の詳細なものを発布している。

4) 政府とサンガ法

政府はサンガの宗規について、関係しない。三派の各支派が独自にきめる。現行の憲法第3章には「スリランカ共和国は仏教に第1の地位を与え、従って仏教を護持、助成することを義務とする」と述べている。しかし、他の思想・良心・宗教に対しても、また、言論・集会・結社・社会的、宗教的運動などの自由をも保障している。現在、政府は「仏教と宗教省」（Ministry of Buddhasāsana and Religious Affairs）を設け、その下に1.Dept. of Buddhist Affairs 2.Dept. of Christian Religious affairs 3.Dept. of Hindu Religious and Cultural Affairs 4.Dept. of Muslim Religious and Cultural affairsを有する。スリランカは多民族国家で宗教も異なるが、政府はどの宗教にも平等に対処する。仏教の優遇といっても、古来の伝統¹⁰⁾ や私的なことである。

⁹⁾ 目次 1.アマラプラ派の確立 2.出家 3.受具式 4.比丘・沙弥の教育 5.弟子の追放 6.住職 7.住職の欠けるとき 8.寺院の行事、祭典 9.比丘・沙弥について 10.寺院の檀徒会 11.寺院の宗教的・国家的・社会的奉仕活動

¹⁰⁾ 大統領が就任時に仏齒寺に参拝する。管長就任時に任命書を手渡す。受具式の儀式前の集会（祭典）に出席など。現在はタミル過激派との戦争も終わったばかりで、特別の仏教に対する優遇という言葉に政府は慎重といえる。

スリランカの比丘は参政権を所有し、街頭演説もし、代議士にもなっている。政治に関係しない法規をもつ支派もある。国民の7割は比丘の出馬に反対と聞いた。

おわりに

話の脱線が多くて少し時間がオーバーしてきました。最後に四点をくりかえさせていただきます。

1) スリランカの各宗に本山がありません。上納金、賦課金を納めなくてよい。本末の従属関係がない。寺院は単立寺院のような存在で、うらやましいです。管長・副管長、審判長の役職の長老は学徳があり修行を積んだ高僧です。必ずしも宗政力があるとは言えません。それに終身制です。ということは、何か事件をおこし責任を問われることはスリランカの上座仏教教団にはないといえます。

2) 全部の宗派を統率する僧王はいない。政府は必要なとき、数人の主だった管長に集まってもらって意見を聞きます。例えば、比丘尼を公式に認めるべきでしょうか。認められませんか。

3) 家族そろって全員で満月の日は寺院にお参りします。寺院で礼拝、聴聞、瞑想をしますが、現世利益のために神さまを拝めるように神祠があります。「俗信」は仏教の活性化に是非とも必要であります。「宗学」は民衆に働きかけるときはむしろ障害となることが多いと思います。

日曜学校が設けられているのはよいことです。

4) 出家の僧侶が俗世間に入りこんでいます。隔離されてはいません。森林行者は別ですが。伝統的なことですが、仏教が民衆の政治、経済、社会、教育、日常の暮しのすみずみまで浸透しています。僧は寺院で在家と接し、在家に招かれては、読経し家庭の話も聞いております。

上座仏教の僧侶は、寺院維持・家族・衣食住などに煩うことがありませんので、ただ民衆の心を安んずることに努力しやすいのだと思います。

ご清聴ありがとうございました。



アーナンダ・マイトレーヤ師

——自坊での教化活動

1969年、多数の支派に四分五裂していたアマラプラ派がアーナンダ・マイトレーヤ師の功績と高潔な人柄でまとまったのである。ときの首相と総督が派の代表者の任命書をかれに手渡した〔写真参照〕。

師は百歳近い高齢でも、オックスフォードやケンブリッジ大学で講義し瞑想も指導されて世界を飛び回っておられた。スリランカの最高の知性として国の内外から尊敬を集めておられた。国立ヴィディオーダヤ大学の副学長、ビルマでの仏典編集会議の代表校訂委員もつとめられ、子供向きの絵本や英語入門書も含めて70冊以上の著書も著しておられる。睡眠時間も2時間ほどと巷間伝説のように語られていた。

Baṅangoḍa Ānanda Maitreya (1896-1998)

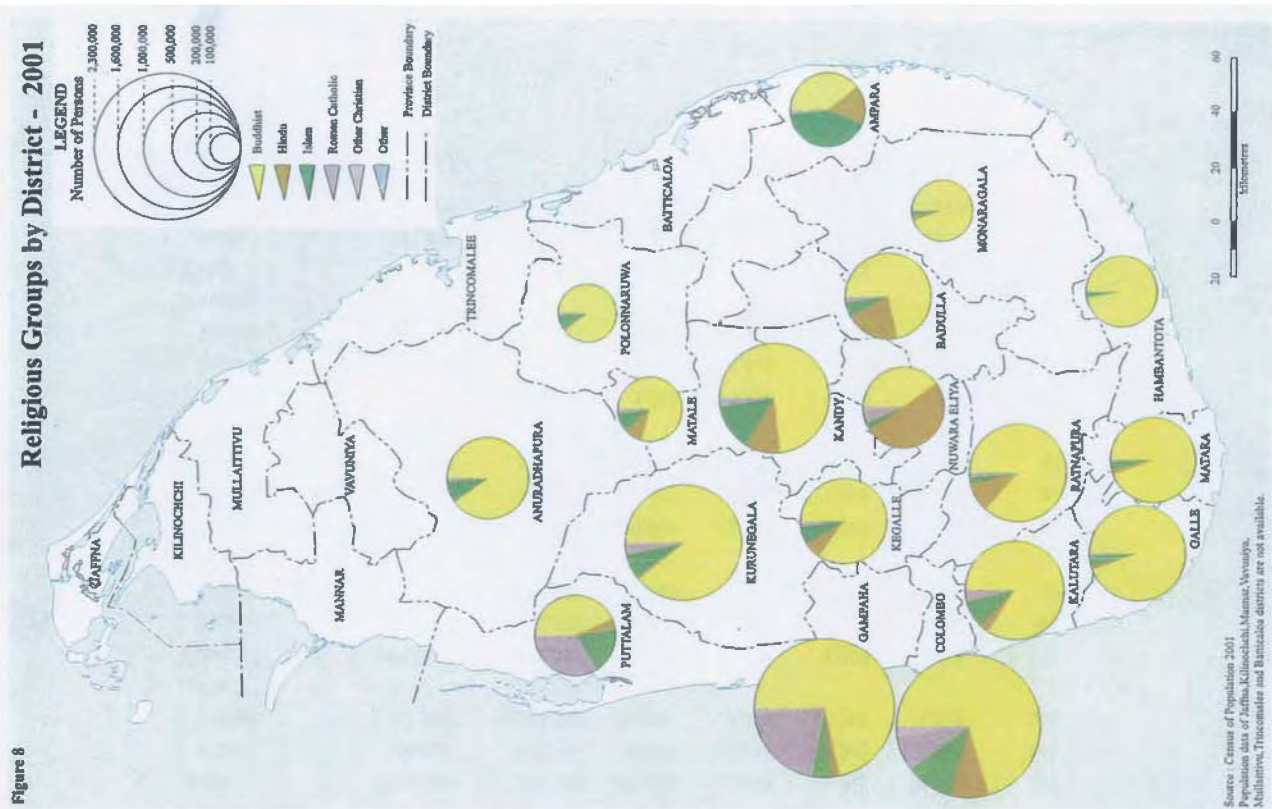
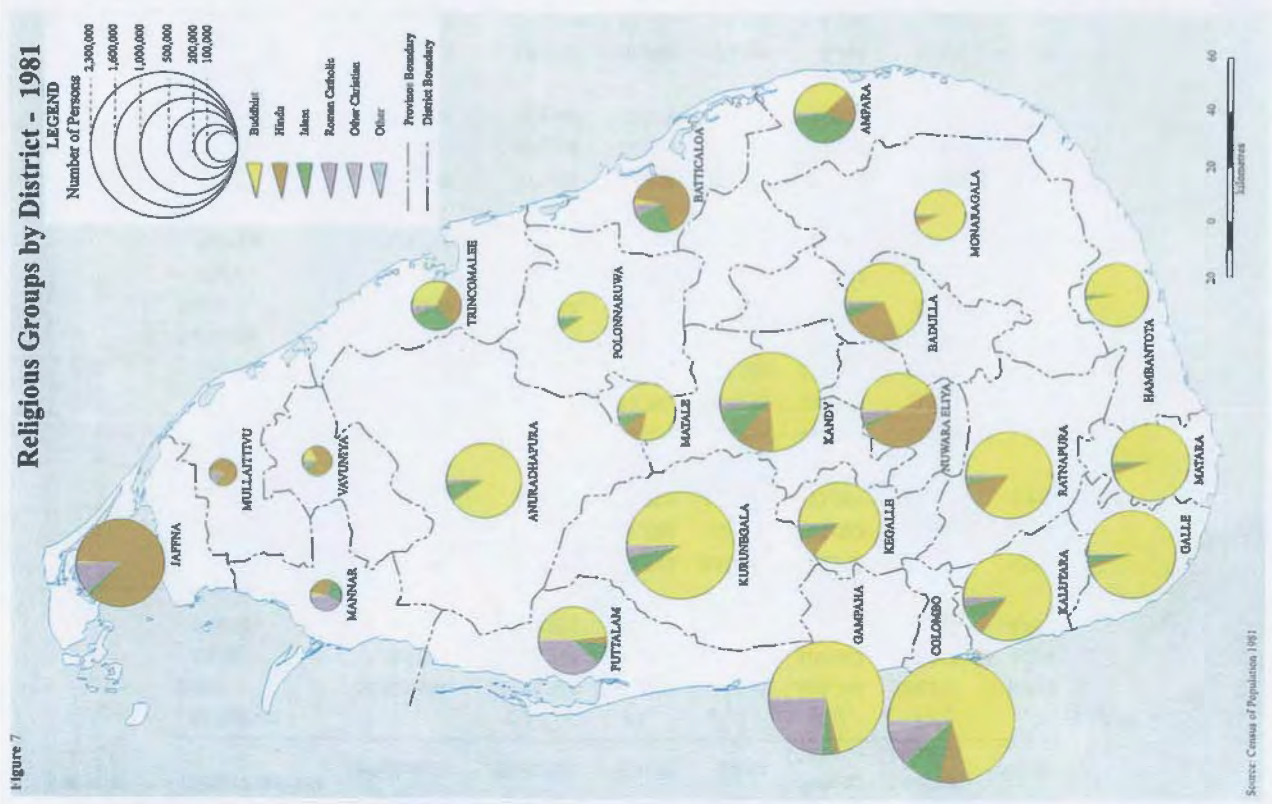
20年程前のことになる。筆者は師が実際どのようなにして布教活動を行い、民衆と接し、信徒の心をつ

かんでおられるのか知らなかったもので、バランゴダの農村地帯にある師の自坊まで出かけた。コロンボからバスを乗り継いで4時間以上もかかった。高僧の寺院というからには、さぞかし日本の別院のように立派で荘厳な大伽藍を想像していた私は驚いた。老朽化した建物はうす汚れたぼろ寺同然であった。門の入口横には大きなヒンドゥー教の神々がまつられているのが目についた。さらに驚いたことにあばら屋のような僧院の前に重いやまいをかかえたような青い顔つきの、不潔な衣服をまとった貧しい村人がたむろしていた。眼を悪くした心の葛藤をかかえた深刻な顔つきの人ばかりであった。訊くと、アーナンダ・マイトレーヤ師がとり行う悪霊祓いを受けに遠い草深い農村から徒歩でやって来た人たちであった。私は欧米の大学や国際学会の席で仏教哲学の奥義や解釈を説かれ、その学識と修養への崇拝を一身に集めておられるアーナンダ・マイトレーヤ師と、この田舎で、ヒンドゥー教的なというよりむしろオカルトといった方がよいような悪霊祓いを施しておられるアーナンダ・マイトレーヤとがどうしても重ならなかった。別人ではないかとさえ思った。

しかし、優しい笑みを浮かべながら貧しい人々と接しておられる師のお姿と穏やかな表情を遠くから拝見するうち、私は師の一見仏教らしからぬ施しが、実は慈悲心から出ていることに気づいた。このような村人に高邁なシャカの教えを説いたところで、いま眼前にある彼らの苦しみや煩悩を救えるものではない。また理解もえられない。ならば、彼らの生活の中に生きている悪霊祓いや呪術によってその苦悩を取り除いてやろう。師のお考えと実践はおそらくそういったことだった。人生の苦悩を安んじる。それこそが本来の仏教に求められる役割のはずである。私は深い感動を覚え、「生きた仏教」という言葉をふと思い浮かべた。そして合掌して静かにその場を離れた。

1998年、アーナンダ・マイトレーヤ師は102歳の生涯を閉じられた。師の誕生の地、バランゴダで執り行われた葬儀には10万人の人たちが別れを告げに集まった。小さなこの国でさながら一つの県が動いたような感であった。

(10月27日「報告」に一部加筆)



Census of Population and Housing, 2001

Population by district, religion and sex

District and sex	All religions	Religion					
		Buddhist	Hindu	Islam	Roman Catholic	Other Christian	Other
18 Districts		76%	8%	8%	6%	1%	1%
Total	16,929,689	12,986,548	1,312,970	1,435,896	1,035,740	150,182	8,353
Male	8,425,607	6,463,977	664,432	721,617	500,222	71,063	4,296
Female	8,504,082	6,522,571	648,538	714,279	535,518	79,119	4,057
Colombo							
Total	2,251,274	1,578,248	194,743	241,944	181,920	51,334	3,085
Male	1,151,413	809,842	101,523	126,368	88,023	24,082	1,575
Female	1,099,861	768,406	93,220	115,576	93,897	27,252	1,510
Gampaha							
Total	2,063,684	1,479,955	42,356	93,496	418,286	28,361	1,230
Male	1,007,702	723,925	22,922	47,233	199,741	13,264	617
Female	1,055,982	756,030	19,434	46,263	218,545	15,097	613
Kalutara							
Total	1,066,239	883,968	34,678	105,957	36,176	5,038	422
Male	527,281	436,947	17,934	52,130	17,658	2,398	214
Female	538,958	447,021	16,744	53,827	18,518	2,640	208
Kandy							
Total	1,279,028	937,001	134,438	173,590	23,232	10,330	437
Male	623,966	457,345	66,562	83,818	11,245	4,780	216
Female	655,062	479,656	67,876	89,772	11,987	5,550	221
Matale							
Total	441,328	348,762	42,433	39,980	8,400	1,703	50
Male	220,070	174,184	21,132	19,792	4,108	828	26
Female	221,258	174,578	21,301	20,188	4,292	875	24
Nuwara Eliya							
Total	703,610	279,139	359,135	19,099	35,008	10,741	488
Male	350,024	138,696	179,088	9,534	17,242	5,220	244
Female	353,586	140,443	180,047	9,565	17,766	5,521	244
Galle							
Total	990,487	932,331	14,934	35,100	4,568	3,378	176
Male	481,849	452,515	7,854	17,542	2,192	1,650	96
Female	508,638	479,816	7,080	17,558	2,376	1,728	80
Matara							
Total	761,370	716,710	17,339	22,481	2,703	2,001	136
Male	369,247	346,866	8,823	11,185	1,300	989	84
Female	392,123	369,844	8,516	11,296	1,403	1,012	52
Hambantota							
Total	526,414	509,987	1,369	13,076	924	949	109
Male	263,197	254,606	826	6,683	549	472	61
Female	263,217	255,381	543	6,393	375	477	48
Ampara							
Total	592,997	235,652	100,213	245,179	7,816	3,969	168
Male	299,004	121,353	49,934	121,842	3,937	1,850	88
Female	293,993	114,299	50,279	123,337	3,879	2,119	80

Population by district, religion and sex

District and sex	All religions	Religion					
		Buddhist	Hindu	Islam	Roman Catholic	Other Christian	Other
Kurunegala							
Total	1,460,215	1,300,539	13,303	98,223	40,680	6,960	510
Male	723,179	643,508	6,949	49,465	19,669	3,328	260
Female	737,036	657,031	6,354	48,758	21,011	3,632	250
Puttalam							
Total	709,677	308,273	29,482	134,643	229,966	6,830	483
Male	352,455	155,602	14,875	67,068	111,467	3,189	254
Female	357,222	152,671	14,607	67,575	118,499	3,641	229
Anuradhapura							
Total	745,693	670,963	3,459	62,797	6,266	2,073	135
Male	380,516	341,608	2,010	32,499	3,305	1,019	75
Female	365,177	329,355	1,449	30,298	2,961	1,054	60
Polonnaruwa							
Total	358,984	320,489	6,592	27,225	3,883	691	104
Male	187,789	166,854	3,667	14,759	2,114	333	62
Female	171,195	153,635	2,925	12,466	1,769	358	42
Badulla							
Total	779,983	561,510	158,473	41,347	13,236	5,242	175
Male	387,583	278,839	78,848	20,832	6,490	2,492	82
Female	392,400	282,671	79,625	20,515	6,746	2,750	93
Moneragala							
Total	397,375	375,252	11,623	8,183	1,583	681	53
Male	202,816	191,287	6,038	4,312	791	354	34
Female	194,559	183,965	5,585	3,871	792	327	19
Ratnapura							
Total	1,015,807	880,151	96,738	21,901	11,728	4,924	365
Male	512,903	443,741	49,276	11,467	5,793	2,439	187
Female	502,904	436,410	47,462	10,434	5,935	2,485	178
Kegalle							
Total	785,524	667,618	51,662	51,675	9,365	4,977	227
Male	384,613	326,259	26,171	25,088	4,598	2,376	121
Female	400,911	341,359	25,491	26,587	4,767	2,601	106

Special Enumeration - 2007

population by religion, district and sex

DS division and sex	Total population	Religion					
		Buddhist	Hindu	Islam	Roman Catholic	Other Christian	Not Stated
Jaffna District							
Total	545,604	124	467,963	507	63,701	12,798	511
Male	259,533	81	222,157	285	30,739	6,065	206
Female	286,071	43	245,806	222	32,962	6,733	305
Batticaloa District							
Total	516,049	2,431	344,833	128,087	23,404	16,125	1,169
Male	249,938	1,177	166,250	63,409	11,108	7,484	510
Female	266,111	1,254	178,583	64,678	12,296	8,641	659
Ampara District							
Total	610,713	227,759	103,460	267,264	7,128	4,223	879
Male	301,455	112,690	50,332	132,584	3,436	1,970	443
Female	309,258	115,069	53,128	134,680	3,692	2,253	436
Trincomalee District							
Total	334,728	83,491	80,366	151,998	12,817	5,562	494
Male	166,679	41,416	38,589	77,680	6,108	2,651	235
Female	168,049	42,075	41,777	74,318	6,709	2,911	259

Source : Special Enumeration 2007, Department of Census and Statistics

スリランカの寺院・モスク・教会数・僧侶(聖職者)数

宗教	寺院・モスク・教会		僧(聖職者)	
	2010	2011	2010	2011
仏教	10,134	10,349	40,344	42,677
ヒンドゥー教	5,143	5,248	1,098	1,113
イスラム教	1,967	1,982	3,934	3,964
キリスト教	1,625	1,722	1,130	1,170
総数	18,869	19,301	46,506	48,928

スリランカの日曜学校・生徒・教員数

宗教	学校		生徒		教員	
	2010	2011	2010	2011	2010	2011
仏教	9,914	10,024	1,871,782	1,932,582	121,870	120,864
ヒンドゥー教	1,516	1,556	162,223	175,882	8,130	8,330
イスラム教	2,407	2,453	187,553	211,034	11,728	12,420
キリスト教	1,255	1,380	226,789	249,467	14,314	15,745
総数	15,029	15,413	2,448,347	2,568,965	156,042	157,359

(Department of Buddhist Affairs, 2012)

全アマラプラ派の会長に任命書を手渡す総督と首相
Dīpaduttārāma, Koṭahēna にて



1969年、Baṅgaḍa Ānanda Maitreya (中央) が Śrī Laṅkā Amarapura Mahā-saṅgha Sabhāva の会長に任命され、Dudley Senanayake 首相 (左) と総督 William Gopallawa (右) によって、スリランカの伝統に従って、任命書を手渡す儀式が行われた。Saddharmākara Pirivena (Pīrvatta, Pīnadura) の仏殿の壁画より。Ven. Talallē Mettānanda 住職のご好意による。

和合具足戒 Sāmaggi Upasampadā に集まった支派の管長たち
Siri Vajirañāṇa Dhammāyanaya, Maharagama にて



第2回和合具足戒 (1990)。中央 Baṅgaḍa Ānanda Maitreya, 右 Maḍihē Paññāsīha, 左 Talallē Dhammānanda。第2回受式者 Ven. M. Dhammajoti Thera 提供。

第1回は1969年。

NUMBER OF BUDDHIST TEMPLES AND BUDDHIST MONKS IN SRILANKA - DISTRICT WISE -2006

District	No. of Temples	No. of Buddhist Monks	Samanera	Upasampada	Monks staying in foreign	Ethnicity			Educational Qualification			Language Ability			
						Srilankan	Tamil	Other	Degree or higher	Piriven final exam complete ed	Less than Exam of Basic Pirivena	Sinhala	Tamil	English	Other
Colombo	833	3513	1627	1886	45	3326	12	175	1022	940	1551	3467	73	1376	707
Kalutara	640	2778	1501	1277	254	2744		34	541	798	1439	2741	269	913	394
Gampaha	699	3395	1890	1505	110	3316	1	78	750	999	1646	3144	83	897	265
Galle	722	3669	2162	1507	177	3665	1	3	690	983	1996	3635	167	694	653
Matara	542	2619	1560	1059	12	2615		4	512	741	1366	2610	60	788	206
Hambantota	382	1761	1042	719		1761			319	509	933	1761	5	190	114
Badulla	418	1830	1060	770	2	1830			313	468	1049	1830	91	298	196
Monaragala	299	1244	730	514	2	1244			197	429	618	1244	46	281	161
Anuradhapura	701	2110	1256	854	1	2110			354	563	1193	2110	113	583	83
Polonnaruwa	277	963	536	427	4	963			121	310	532	963	18	104	3
Kandy	899	3549	1958	1591	44	3529		20	672	1152	1725	3529	197	1047	519
Matale	374	1135	588	547	3	1133		2	181	379	575	1132	103	380	140
Nuwara Eliya	276	922	486	436	3	922			182	312	428	922	33	123	265
Rathnapura	604	2127	1038	1089	12	2126		1	447	636	1044	2126	131	587	137
Kegalle	598	1801	845	956	5	1800		1	341	562	898	1801	81	488	858
Kurunagala	1360	4141	2228	1913	2	4138		3	776	1237	2128	4141	196	1015	389
Puttalam	290	657	319	338	8	655		2	137	189	331	655	68	276	186
Trincomalee	43	215	126	89		215			29	75	111	214	6	24	8
Ampara	158	638	419	219		638			74	127	437	638	62	81	10
Vaunia	16	39	17	22		39			10	9	20	39	5	4	10
Total	10131	39106	21388	17718	684	38769	14	323	7668	11418	20020	38702	1807	10149	5304

シャム派、アマラプラ派、ラーマンニャ派の寺院数と僧侶数
Department of Buddhist Affairs (2006)

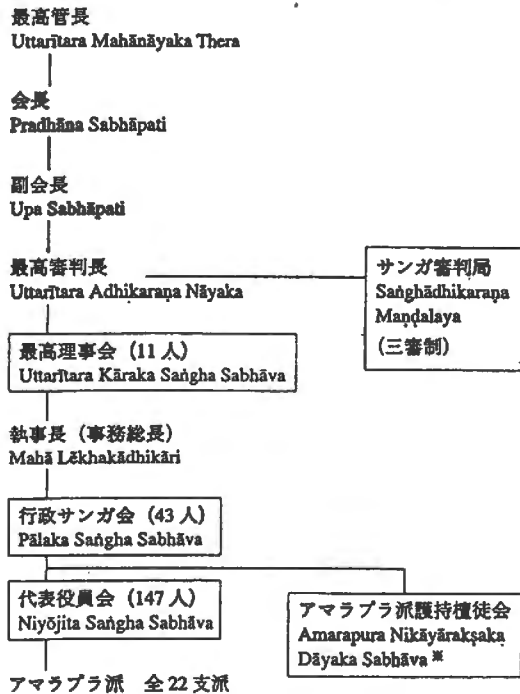
派	Syamōpāli Mahānikāya								Śrī Laṅkā Amarapura Mahānikāya				
支派	Malvatu Pāśvaya	Asgiri Pāśvaya	Ratmalāna Pāśvaya	Kōṭṭē Pāśvaya	Vanavāsa Pāśvaya	Ūva Pāśvaya	Rohaṇa Pāśvaya	Daṁbulla Pāśvaya	Amarapura Mūlavamsika Nikāya	Amarapura Mahānikāya	Amarapura Cūḷagaṇṭhi Nikāya	Daḍalu Paramparāyatta Amarapura Saṁāgama	Amarapura Siri Saddhamma-vamsa Nikāya
寺院数	3753	1037	104	495	127	30	218	50	115	118	107	54	380
僧侶数	13636	3307	395	2193	417	135	1090	130	385	375	450	118	1709

派	Śrī Laṅkā Amarapura Mahānikāya									
支派	Amarapura Nikāya	Amarapura Siri Saddhammayuttika (Mātara) Nikāya	Amarapura Kalyāṇivamsika Śrī Dharmārāma Saddhammayuttika Nikāya	Amarapura Ariyavamsa Saddhammayuttika Nikāya	Amarapura Mrammavamsābhidhaja Siri Sadhammayuttika Mahānikaya	Amarapura Mahānikaya Kalyāṇivamsa Pāśvaya	Saparaganu Amarapura Siri Saddhammayamsa Nikāya (Eknāligoda Vihāra Pāśvaya)	Saparaganu Amarapura Siri Saddhammayamsa Nikāya (Pālmaḍulla Vihāra Pāśvaya)	Ūva Amarapura Nikāya	Ūva Uḍukinda Amarapura Nikāya
寺院数	194	114	14	339	30	97	67	43	64	16
僧侶数	590	485	59	1403	111	530	244	124	284	109

派	Śrī Laṅkā Amarapura Mahānikāya						Śrī Laṅkā Rāmañña Mahānikāya	
支派	Saparagamu Amarapura Siri Saddhammavamsa Nikāya (Rāssagala Vihāra Pāśvaya)	Uḍaraṭa Amarapura Mahānikāya	Uḍaraṭa Amarapura Sāmagrī Saṅghasabhāva	Amarapura Vajiravamsa Mahānikāya	Amarapura Śrī Dharmaraksita Nikāya	Śrī Laṅkā Amarapura Shwejin Nikāya	Rāmañña Mahānikāya	Kalyāṇi Yogāśrama Saṁsthāna
寺院数	57	425	40	50	188	63	1598	89
僧侶数	215	1596	151	149	902	265	7076	382

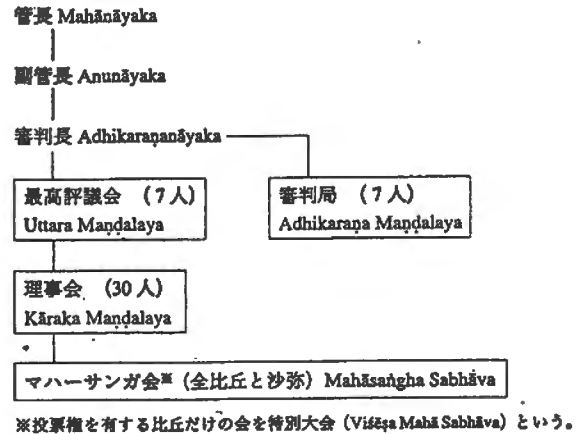
不明	寺院数	55	全寺院数 10131, 全僧侶数 39106
	僧侶数	91	

Śrī Laṅkā Amarapura Mahāsaṅgha Sabbhāva の統制組織

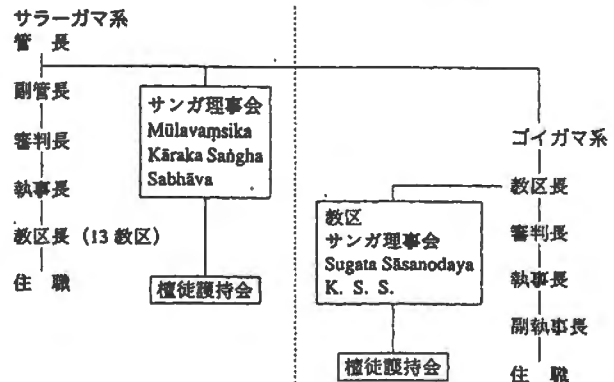


※ Amarapura Nikāyābhivṛddhi Dāyaka Sabbhāva と改称し W. J. M. Lokubapāra 仏教省大臣が總代。

Amarapura Śrī Dharmarakṣita Nikāya の統制組織



Amarapura Mūlavamsika Nikāya の統制組織



ラーマンニャ派の行政組織

